

株式会社ハイドロウィングラボ

2026年第2四半期

中国 水素エネルギー産業 四半期レポート

China Hydrogen Energy Industry Quarterly Intelligence Report

調査対象期間	2026年3月25日～2026年6月25日
対象地域	中国国内（中国企業の海外活動を含む）
対象分野	AEL / PEM / SOEC 水電解 / 固体水素貯蔵(MH・マグネシウム系) / 液化水素 / アンモニア / グリーン水素アンモニア・メタノール一体化
除外対象	燃料電池単体・日本・欧州・米国・その他海外発の情報
情報源	北極星氢能網・国際氢能網・OFweek・各社発表 / 発改委・工信部・国家能源局・証券アナリスト報告
発行機関	株式会社ハイドロウィングラボ
作成者	シニアアナリスト
調査言語	中国語
発行日	2026年6月26日
定価	86,000円（税抜き）／94,600円（税込み）

本レポートは中国の公開情報（中国メディア・政府通知・企業発表・証券アナリスト報告等）に基づき独自に分析・編集したものです。投資・経営判断への利用は自己責任でお願いします。

目次		
1	エグゼクティブサマリー	3
1b	水素製造・貯蔵方式別 技術・市場動向 早見表	4
2	市場・政策動向	5
2.1	国家水素政策（発改委・工信部・能源局・能源法）	5
2.2	「十五五」計画と両会2026の水素関連指針	5
2.3	市場規模・電解槽招標動向	5
2.4	地方政府の水素計画（内蒙古・寧夏・吉林等）	5
3	技術動向（製造・貯蔵方式別）	6
3.1	AEL（アルカリ水電解）－ 最大シェア・価格競争	6
3.2	PEM電解槽 － 浸透率上昇・再エネ変動対応	6
3.3	SOEC（固体酸化物型水電解）－ 実証段階	6
3.4	固体水素貯蔵（MH・マグネシウム系）	6
3.5	液化水素・アンモニア － 大規模商用化へ	6
4	用途別動向（詳細）	7
4.1	グリーン水素アンモニア・メタノール一体化	7
4.2	水素パイプライン・インフラ整備（西部水素東送）	7
4.3	工業用途（水素製鉄・グリーン化学）	7
4.4	中国企業の海外展開	7
5	主要ニュース詳細（月別）	8
5.1	2026年4月	8
5.2	2026年5月	9
5.3	2026年6月	10
6	主要企業動向	11
6b	水素製造・輸送コスト分析	12
7	技術・市場の示唆	13
7b	技術用語・略語集	16
8	参考情報・主要情報源	17
8b	アナリストのまとめ	18
9	免責事項	19

1. エグゼクティブサマリー

■ 四半期の重要トピック TOP7（中国・水素エネルギー）

#	トピック	重要度	分野
1	「十五五」計画で水素を6大未来産業に位置づけー 両会2026で国家低炭素転換基金・水素/グリーン燃料を新たな成長点に	最重要	政策
2	隆基氢能 中石化オールドス30,000t/年 風光緑氢プロジェクト落札ー 1000Nm3/h アルカリ電解槽24台	★★★★★	AEL/招標
3	内蒙古で大型 水素・アンモニア・メタノール一体化 が相次ぎ認可ー 華電扎魯特(緑氢1.79万t/緑メタノール20万t)、中天鵝(投資647億元)	★★★★★	一体化
4	西氢东送ー 中石化 内蒙古ー北京400km純水素パイプライン構想が前進。寧夏397km(混入24%)稼働	★★★★★	輸送
5	陽光氢能 中国初のPEM＋アルカリ併用グリーン水素プロジェクトが稼働ー 方式併用の実装進む	★★★★★	PEM/AEL
6	水素製鉄（水素還元製鉄）が商用化加速ー 百万トン級プラント稼働・建設が拡大	★★★★★	水素製鉄
7	固体水素貯蔵（マグネシウム系MH）ー フォークリフト・ドローン実証から定置・水素ステーション用途へ拡大の見通し	★★★★	固体貯蔵

■ 四半期の大きな流れ（3点）

①政策の格上げー水素が「未来産業」として国家戦略の中核に

「十五五」計画（2026～30年）で水素エネルギーが脳科学・核融合等と並ぶ6大未来産業に位置づけられ、両会2026（3月）の政府活動報告では国家低炭素転換基金の設立と、水素・グリーン燃料を新たな成長点に育てる方針が示された。2025年施行の能源法が水素を法的にエネルギーと位置づけたことと合わせ、本四半期は政策の格上げが鮮明になった。補助の直接給付より、大型プロジェクト認可と産業政策で需要を作る中国型の進め方が一段と強まっている。

②グリーン水素アンモニア・メタノール一体化が投資の主役

内蒙古を中心に、風力・太陽光＋大規模アルカリ電解＋アンモニア/メタノール合成を束ねた「水素・アンモニア・メタノール一体化」プロジェクトの認可が相次いだ。華電扎魯特（緑氢1.79万t/緑メタノール20万t）、中天鵝（投資647億元、緑氢5万t/合成アンモニア48万t）など、数百億元規模の案件が並んだ。電解槽の招標（入札）も拡大し、隆基・陽光・派瑞・考克利尔競立などの受注競争が激化している。

③輸送・貯蔵インフラの整備が「西部水素東送（西氢东送）」で本格化

中石化の内蒙古ー北京400km純水素パイプライン構想（西氢东送）が前進し、寧夏では397km（混入率24%）が稼働。内蒙古は4,400kmの緑氢パイプライン網と299kmのアンモニア輸送管も計画する。固体水素貯蔵（マグネシウム系MH）はフォークリフト・ドローンの実証から定置・水素ステーション用途への拡大が見込まれ、製造の大規模化に続いて「運ぶ・貯める」インフラの整備が産業化の次の焦点となっている。

1b. 水素製造・貯蔵方式別 技術・市場動向 早見表

中国の主要な水素製造（水電解）・貯蔵・キャリア技術について、成熟度・主要プレイヤー・本四半期の動向を整理した。

方式・技術	成熟度	中国主要プレイヤー	本四半期の主要動向
AEL（アルカリ水電解）	★★★★★ 商用・最大シェア	隆基・陽光・派瑞(718所)・考克利尔競立・三一	大型招標が拡大。隆基が中石化オールドス案件落札（1000Nm3/h×24台）
PEM電解槽	★★★ 浸透率上昇	陽光氢能・中船派瑞・国氢科技	陽光が中国初のPEM＋アルカリ併用プロジェクト稼働。変動対応で採用増
SOEC（高温水蒸気電解）	★★ 実証段階	研究機関・一部企業	成熟度は低く実験室・実証段階。商用化はこれから
固体水素貯蔵（MH・Mg系）	★★★ 用途実証	有研科技・厚普・氢晨等	マグネシウム系の貯蔵密度向上。フォークリフト・ドローンで実証、定置へ拡大見通し
液化水素	★★ 立ち上がり	国富氢能・航天系	民生用途は黎明期。航天分野の技術を民生展開する動き
アンモニア（キャリア・燃料）	★★★★ 大規模商用化	遠景・宝豊・国能・金風	遠景赤峰が中国最大のグリーンアンモニア。輸出も視野。一体化案件が牽引

2. 市場・政策動向

2.1 国家水素政策（発改委・工信部・国家能源局・能源法）

中国の水素政策は、2025年1月1日施行の能源法（エネルギー法）が水素を法的に「エネルギー」と明確に位置づけたことを起点に、発改委・工信部・国家能源局が大型プロジェクト認可と産業政策で需要創出を主導する体制が定着している。直接補助よりも、再エネ＋電解＋化学（アンモニア・メタノール）を束ねた大規模一体化案件の認可を通じてグリーン水素の需要を作り出す「中国型」のアプローチが特徴である。本四半期もこの路線が一段と強まった。

2.2 「十五五」計画と两会2026の水素関連指針

「十五五」計画（第15次五カ年計画、2026～30年）では、水素エネルギーが脳・機械インターフェース、核融合などと並ぶ「6大未来産業」の一つに位置づけられ、産業としての戦略的格上げが明確になった。两会2026（2026年3月）の政府活動報告では、国家低炭素転換基金の設立と、水素・グリーン燃料を「新たな成長点」として育成する方針が打ち出された。これにより、地方政府の水素計画と大型プロジェクト認可がさらに加速する政策環境が整った。

2.3 市場規模・電解槽招標動向

中国はアルカリ水電解で世界最大の製造能力を持ち、システム価格は欧米比で5～6割安いとされる（スタックで\$114～142/kW級）。本四半期も電解槽の招標（入札）が拡大し、隆基氢能が中石化のオールドス3万t/年 風光緑氢プロジェクト（1000Nm³/hアルカリ電解槽24台）を落札するなど、大型案件の受注競争が激化している。隆基・陽光のように低コスト再エネ（太陽光・パワエレ）と電解槽を束ねる垂直統合企業の国際大型案件獲得力が、2026年の中国水素産業の注目点となっている。

指標	状況	論点
アルカリ電解槽	世界最大の製造能力	欧米比5～6割安。大型招標が需要を牽引
PEM電解槽	浸透率上昇中	変動再エネ対応で採用増。コスト低減が課題
緑氢一体化案件	大型認可ラッシュ	水素・アンモニア・メタノール一体化が投資の主役（内蒙古等）
輸送インフラ	整備開始	西氢东送・混入パイプライン・アンモニア管

2.4 地方政府の水素計画（内蒙古・寧夏・吉林等）

内蒙古は緑氢の最大拠点として、20万t級の緑氢生産・水素・アンモニア・メタノール一体化案件を相次ぎ認可し、事業者が公共電網と接続する連絡線を自前で建設できる柔軟な制度を導入するなど、投資環境を整えている。寧夏は混入率24%の397kmパイプラインを稼働させ、宝豊能源の10万t/年 緑氢アンモニア合成が進む。吉林・甘肅・新疆なども大型案件を擁し、地方間の誘致競争がプロジェクトの実装を後押ししている。

サンプル版はここまでです

続きは製品版でご覧いただけます。

ご購入・お問い合わせは下記よりお願いいたします。

<https://hydrowinglab.co.jp/#contact>

株式会社ハイドロウィングラボ

HydroWing Lab Co., Ltd.